

Book Review

**Utilization of Microorganisms in
Organic Syntheses**

by G. K. Skryabin and Ludmira A. Golovleva

(In Russian language)

(Text 333 pages)

Increasing attention is being paid to the utilization of microorganisms as excellent catalysts in syntheses and transformations of organic compounds in the fields of not only traditional fermentation technology but also chemical and pharmaceutical industries.

This book is written by Professor G. K. Skryabin (Director of the Institute of Biochemistry and Physiology of Microorganisms, The Academy of Sciences of the USSR, one of the most eminent applied microbiologists in USSR), and his collaborator of high talent, Dr. Ludmira A. Golovleva in order to give comprehensive and detailed prospect of this territory.

The contents of this book consist of Introduction; Fundamental techniques in applied microbiology; Fermentation chemistry including a variety of biochemical reactions useful for practical purposes; Principles for selection of useful microorganisms; and extensive examples of transformation or synthesis of organic substances by means of microorganisms, such as steroids, carbohydrates, antibiotics, hydrocarbons, heterocyclic compounds, alkaloids, organic acids, nucleosides and nucleotides, pesticides and so on.

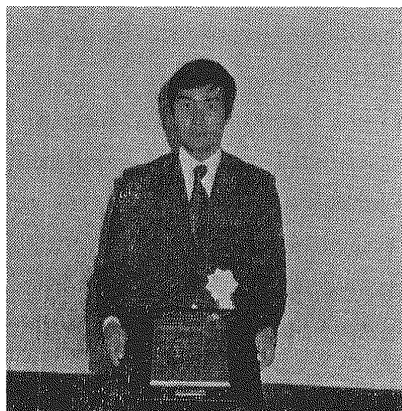
Although this book is written in Russian, the authors' theoretical views and abundant examples cited from the works of the authors and researchers of all over the world are of great interest and importance.

(S. Fukui)

会 報

昭和51年度日本醸酵工学会大会

昭和51年度日本醸酵工学会大会は、10月25日から27日の3日間、日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町29）において開催された。会場は第1会場（講堂）、第2会場（ホール）、第3会場（第2教室）、第4会場（第1教室）および第5会場（C教室）の5会場にわかれて213題の発表が行なわれた。すなわち醸造・I～Ⅲ、微生物分類・殺菌、酵素工学、醸酵生理、非炭水化物の資化、廃液処理、酵素、微生物の生理・生態および生物化学工学の一般講演と植物繊維資源、酵素工学、Basidiomycetes の培養、SCP とくに C_1 微生物、光合成培養、Flocculation、生化学工業の副産物の利用、二次代謝産物の各シンポジウムならびに石油醸酵研究会との石油醸酵講演会および微生物による環境浄化特定研究班との微生物による環境浄化の各シンポジウムを共催で行ない熱心な討論が行なわれた。



江田賞受賞者 高松 智 氏



学会賞受賞者 橋本 彦堯 氏

大会第2日目は、授賞式、受賞講演および臨時総会が行なわれた。まず、豊沢授賞選考委員より江田賞受賞者の高松智氏について、原田授賞選考委員より斎藤賞受賞者の土戸哲明氏について、山本授賞選考委員より学会賞受賞者の橋本彦堯氏についてそれぞれ選考経過および業績について報告があり、照井会長から受賞者にそれぞれ賞牌、副賞（金一封）が贈呈された。

受賞講演は、江田賞「清酒醸酵槽のスケールアップに関する研究」斎藤賞「微生物の加熱損傷に対する薬剤の併用効果」学会賞「醤油の塩に関する研究」のそれぞれが発表された。

臨時総会は、まず定款第8条の改定について諮られ、正会員年額6,000円（現行4,000円）、学生会員年額4,000円（現行2,500円）団体会員年額15,000円（現行10,000円）および賛助会員年額1口30,000円（現行1口20,000円）1口以上に改定することを決めた。つづいて、細則第24条の改定について諮られ、学会誌として醸酵工学会誌（和文誌）および Journal of Fermentation Technology（英文誌）をおのおの隔月に発行し、醸酵工学に関する報文を掲載するほか、本会記事、会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項も掲載する。

2) 会員には、醸酵工学会誌および Journal of Fermentation Technology を配布することに改定した。

なお同日午後5時30分から、市内北区にある中華料理「北京」において130余名参加の懇親会が盛大に催された。



斎藤賞受賞者 土戸 哲明 氏

昭和51年度 臨時総会 議事録

- 1 日 時 昭和51年10月26日（火） 11時20分～12時
 2 場 所 日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町29）
 3 出席者 本人出席 71名
 委任状による者 615名

（正会員現在数 1,801名
 総会定足数 381名以上）

定刻に黒木事務局長より出席者数および委任状の合計数が定足数に達している旨報告があり、本臨時総会の成立を確認し、開会を宣した。

4 議事の経過および結果

第一号議事 議長選出

黒木事務局長より臨時総会の議事内容を考慮して、照井会長が議長に適任ではないかとの提案に対し、全員一致でこれを承認した。

第二号議事 議事録署名人選出

議事録署名人について諮ったところ、議長の指名に一任されたので、議長は次の二名を署名人に選出した。

高 橋 雅 弘氏

尾 崎 浅一郎氏

第三号議事 定款改定について

一第8条の改定について一 本年度決算の予想および昭和52年度以降の事業運営について、照井会長および江夏会計担当理事より説明があり、昭和52年1月1日より次のとおり改定することが提案され、原案のとおり異議なく承認された。

（現行条文）

第8条 この法人の会費は次のとおりとする

正 会 員 年額 4,000円

学生会員 年額 2,500円

団体会員 年額 10,000円

賛助会員 年額 1口 20,000円（1口以上）

（改定案）

第8条 この法人の会費は次のとおりとする

正 会 員 年額 6,000円

学生会員 年額 4,000円

団体会員 年額 15,000円

賛助会員 年額 1口 30,000円（1口以上）

一細則第24条の改定について一 照井会長より英文誌および和文誌をそれぞれのシリーズに分割することにより、科学研究費補助金の対象となることおよび本会の目標にも合致することなどの事情が説明され、昭和52年1月1日より次のとおり改定することが提案され、原案のとおり異議なく承認された。

（現行条文）

第24条 醗酵工学雑誌（以下学会誌という）には、醗酵工学に関する報文を掲載するほか、本会記事、会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項を掲載し、毎月1回これを発行する。

（改定案）

第24条 学会誌として醗酵工学会誌（和文誌）および Journal of Fermentation Technology（英文誌）をおのおの隔月に発行し、醗酵工学に関する報文を掲載するほか、本会記事、会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

2) 会員には、醗酵工学会誌および Journal of Fermentation Technology を配布する。

昭和51年度 第2回常任理事会 議事録

- 1 日 時 昭和51年10月24日（日） 17時～18時
 2 場 所 新阪急ホテル会議室（大阪市北区小深町38）
 3 出席者 照井 堯造、福井 三郎、江夏 敏郎、大嶋 泰治、田口 久治、高橋 穰二、高原 義昌、
 枋倉辰六郎、山本 武彦
 欠席者 高橋 雅弘、妹尾 四郎

4 議事の経過および結果

第一号議事 定款改定について

定款第8条および細則第24条の改定案について、前回到続いて検討した。つまり、第8条について

は本年度決算予想および昭和52年度以降の事業運営について検討したところ、正会員年額4,000円を6,000円に、学生会員年額2,500円を4,000円に、団体会員年額10,000円を15,000円に、および賛助会員年額1口20,000円(1口以上)を30,000円(1口以上)に改定することが確認された。

また、細則第24条について、会誌の名称は「**醸酵工学会誌**」(和文誌)と「**Journal of Fermentation Technology**」(英文誌)に改称することを確認し、昭和52年1月20日締切りの第4種郵便申請日まで、それぞれ第1号を完成し、その認可を受けて

3月以降は毎月発送する。もし認可が遅れた場合でも会員には書籍小包等により毎月送付することを決めた。

第二号議事 叢書またはハンドブックの編集について

照井会長より、本会の事業としてかねて話題となっていた叢書またはハンドブックの編集を検討してはどうかとの提案があり、審議されたが、これらの編集には関連学会等の協力も考えられるので、まずそれらを考慮の上、後に協議することにした。

昭和51年度 編集委員会 議事録

- 1 日 時 昭和51年10月24日(日) 18時～19時
2 場 所 新阪急ホテル会議室(大阪市北区小深町38)

- 3 出席者 照井 堯造, 福井 三郎, 長谷川武治, 原田 篤也, 市川 邦介, 古賀 正三, 松本 博, 能美 良作, 大嶋 泰治, 芝崎 勲, 田口 久治, 高橋 稷二, 柄倉辰六郎, 上田 清基, 山本 武彦
北原 覚雄(編集顧問)

- 欠席者 高橋 雅弘, 有馬 啓, 本江 元吉, 菱田 泰治, 村上 英也, 岡田 弘輔, 岡見 吉郎, 外村 健三, 吉田 文武

報告: 大嶋編集理事から、次のことが報告された。

- ・本年度上半期の原稿受付状況、月別受付原稿と掲載状況および投稿数と掲載数について

4 議事の経過および結果

第一号議事 会誌の名称について

本年度第1回常任理事会の提案にもとづいて、学会誌の名称を検討した結果、和文誌を「**醸酵工学会誌**」、英文誌を「**Journal of Fermentation Technology**」とすることに決定した。

第二号議事 表紙のデザイン等について

一和文誌一

- イ. 昭和52年度は第55巻第1号を初めとして第6

号までを奇数月に発行する。

ロ. 英文誌の引用は**醸酵工学**とする

ハ. 表紙の下方に、和文の発行機関と併記して「**The Society of Fermentation Technology, Japan**」と入れる。

一英文誌一

イ. 昭和52年度は Vol. 55 No. 1 を初めとして No. 6 までを偶数月に発行する。

ロ. 和文誌の引用は **Hakkokogaku** とする。

ハ. 広告掲載およびその他の編集に関する事項は、編集理事および編集幹事に一任することを決めた。

昭和51年度 第2回評議員会 議事録

- 1 日 時 昭和51年10月25日(月) 12時～13時
2 場 所 日本生命中之島研修所(大阪市北区常安町29)
3 出席者 本人出席 24人
委任状による者 22人

定款第26条の規定にもとづき、本多久吉氏を議長に選出し、本会の定足数を確認の上議事に入る。

会務報告: 担当理事から、次の事項が報告された。

- イ. 本年度上半期の事業、会議開催状況および会

員異動状況について

- ロ. 本年度上半期の収入、支出ならびに下半期の

見通しについて

ハ. 本年度上半期の原稿受付状況, 月別受付原稿と掲載状況および投稿数と掲載数

4 議事の経過および結果

第一号議事 定款改定について

一第8条の改定について一 本年度決算の予想および昭和52年度以降の事業運営について, 照井会長より説明があり, 審議した結果, 昭和52年1月1日より次のとおり改定することが決定し, これに必要な定款の改定を臨時総会に諮ることになった。

(改定案)

第8条 この法人の会費は次のとおりとする

正 会 員	年 額	6,000円
学生会員	年 額	4,000円
団体会員	年 額	15,000円
賛助会員	年 額 1口	30,000円 (1口以上)

一細則第24条の改定について一 照井会長より英文誌および和文誌をそれぞれのシリーズに分割することにより, 科学研究費補助金の対象となる

こと, および本会の目標にも合致することなどの事情が説明され, 昭和52年1月1日より, 次のとおり改定することが提案され, 原案のとおり異議なく承認された。

(改定案)

第24条 学会誌として醸酵工学会誌 (和文誌) および Journal of Fermentation Technology (英文誌) をおのおの隔月に発行し, 醸酵工学に関する報文を掲載するほか, 本会記事, 会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

2) 会員には, 醸酵工学会誌および Journal of Fermentation Technology を配布する。

第二号議事 次期理事候補者推薦委員会について

細則第8条により, 評議員会内に10名以上からなる次期理事候補者推薦委員会を組織しなければならないので, その委員の選出について諮ったところ, 本多久吉氏, 千畑一郎氏, 原田篤也氏および川野義男氏が世話人として選ばれ, 同委員会の組織を一任された。

昭和51年度 第2回理事会 議事録

1 日 時 昭和51年10月25日 (月) 17時15分～19時

2 場 所 レストランパレス会議室 (大阪市北区梅田8番地)

3 出席者 照井 堯造, 福井 三郎, 高橋 雅弘, 江夏 敏郎, 栗山 一秀, 蓑田 泰治, 村上 英也, 能美 良作, 岡田 弘輔, 大嶋 泰治, 妹尾 四郎, 田口 久治, 高橋 穰二, 高原 義昌, 武田 六郎, 高尾 彰一, 栃倉辰六郎, 上田誠之助
竹村 成三 (監事) 上田 清基 (支部長)

欠席者 高橋 甫, 山本 武彦

会務報告: 担当理事から, 次の事項が報告された。

イ. 本年度上半期の事業, 会議開催状況および会員異動状況について

ロ. 本年度上半期の収入, 支出ならびに下半期の見通しについて

ハ. 本年度上半期の原稿受付状況, 月別受付原稿と掲載状況および投稿数と掲載数について

4 議事の経過および結果

第一号議事 定款改定について

一第8条の改定について一 本年度決算の予想および昭和52年度以降の事業運営について, 照井会長および江夏会計担当理事より説明があり, 審議した結果, 昭和52年1月1日より次のとおり改定することが決定し, これに必要な定款の改定を

臨時総会に諮ることになった。

(改定案)

第8条 この法人の会費は次のとおりとする

正 会 員	年 額	6,000円
学生会員	年 額	4,000円
団体会員	年 額	15,000円
賛助会員	年 額 1口	30,000円 (1口以上)

一細則第24条の改定について一 照井会長より英文誌および和文誌をそれぞれのシリーズに分割することにより, 科学研究費補助金の対象となることおよび本会の目標にも合致することなどの事情が説明され, 審議した結果, 昭和52年1月1日より次のとおり改定することが決定し, これに必要な定款の改定を臨時総会に諮ることになった。

(改定案)

第24条 学会誌として醸酵工学会誌(和文誌)および Journal of Fermentation Technology (英文誌)をおのおの隔月に発行し、醸酵工学に関する報文を掲載するほか、本会記事、会務報告その他編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

2) 会員には、醸酵工学会誌および Journal of Fermentation Technology を配布する。

第二号議事 会誌購読料の改定について

会費を改定することに伴ない、国内の会誌購読料および海外購読料について、事務局案を検討したところ、昭和52年1月1日より国内の会誌購読料は7,800円(一冊定価650円)を12,000円(一冊定価1,000円)、海外購読料は現行の年間25ドルを据置くことに決定した。

第三号議事 微生物学国際大学院研修講座について
照井会長より、同研修終了者および現在の研修生の活動状況等をニューズレター様にまとめて、年2回程度発行してはどうかとの提案に、全員異議なく賛成した。尚この事業にはユネスコ本部より

年間1000ドルの援助金が支給されることになっているとの説明があった。

第四号議事 次期評議員候補者推薦委員会について
細則第8条により、理事会内に10名以上からなる次期評議員候補者推薦委員会を組織しなければならないので、その委員の選出について諮ったところ、福井三郎氏、高原義昌氏および田口久治氏が世話人として選ばれ、同委員会の人選を一任することにした。

第五号議事 新入会員の承認について

正会員47人、学生会員27人および団体会員3社の入会申込みについて検討したところ、全員の入会を承認した。

第六号議事 その他

次の事項について、継続審議とすることにした。

- イ. 大学4年生を限度として、会誌を1年間無料配布する
- ロ. ユネスコ微生物学国際大学院終了生に、会誌を1年間無料配布する
- ハ. 本会創立60周年記念事業について

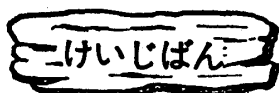
お 知 ら せ

本誌11月号色ページにてお知らせいたしましたように、従来の「醸酵工学雑誌」を昭和52年より「醸酵工学会誌」(奇数月発行)と Journal of Fermentation Technology (偶数月)に分割して発行することに改定されました。

各位には、第4種郵便申請等の事情により、醸酵工学会誌 Vol. 55, No. 1 および Journal of Fermentation Technology Vol. 55, No. 1 の両誌を1月下旬に同時にお届けいたします。

なお3月以降は従来通り25日に発行いたします。

事 務 局



公開シンポジウム「金属イオンが関与する生体系およびそのモデル系の構造と機能に関する研究」

期日 昭和52年1月13日(木) 13:00から、14日(金)
午前、午後
会場 大阪科学技術センター(大阪市西区靱1-118)
テーマ 1. ポルフィリンおよびコロノイド金属錯体
／2. 天然および合成酸素運搬体；鉄-硫黄
たんぱく質／3. アミノ酸およびペプチドの
金属錯体
主催 昭和51年度科学研究費総合研究(B)生物無機
化学総合研究班 中原昭次
Tel. 06-856-1151 内線 2754

エネルギーの化学的利用研究会

共催 日本化学会近畿支部、近畿化学工業会
期日 昭和52年1月27日(木)、28日(金)
会場 大阪科学技術センター 404号室
内容 光エネルギーの光化学的、光電気化学的な変
換の機構、太陽エネルギー利用、および関連
する諸問題について研究報告をいただきゆっ
くり時間をかけて討論したいと思います。
連絡先 560 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学基礎工
学部 坪村 宏 Tel. 06-856-1151

昭和52年度日本農芸化学会大会

期日 昭和52年4月1日(金)～4日(月)
会場 慶応義塾大学日吉校舎
(横浜市港北区日吉町665)
講演申込締切 昭和52年1月10日(月) 正午
講演者 本会正会員および学生会員に限る
講演時間 1題12分
申込先 113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル内
日本農芸化学会大会係
詳細 農化 50 10

日本化学会第36春季年会

期日 昭和52年4月1日(金)～4月4日(月)
会場 近畿大学(東大阪市小若江 3-4-1)
詳細 化学と工業 29 10

第5回酵素類似様機能をもつ有機化学反応の研究会

期日 昭和52年3月31日(木)
会場 大阪府立大学工学部 8号館(堺市百舌鳥梅町
4-804)
主旨 本研究会は酵素モデル反応を中心に Bioorga-
nic Chemistry の研究とその成果の有機化学

への応用という目的で、各分野の研究者が広
い視野に立って討論し、この新しい境界領域
の研究を発展させようとするものです。

詳細 農化 50 8

申込先 591 堺市百舌鳥梅町4-804
大阪府立大学工学部応用化学科
井本英二 Tel. 0722-52-1161

第26回国際純正応用化学連合化学会議 (IUPAC Congress)

期日 昭和52年9月4日～10日
会場 東京
Second Circular 請求先
101-91 神田郵便局私書箱 56
IUPAC 係へ予備登録書を請求(50円切手貼
付の返信用定形大型封筒同封)下さい

**International Course-Cum-Symposium on Bio-
conversion of Cellulosic Substances into Energy,
Chemicals and Microbial Protein**

期日 昭和52年2月7日～23日
会場 Indian Institute of Technology, Hauz Khas,
New Delhi-110029 (India)

Course: A twelve days course from February 7-17,
1977 for international participants pro-
viding intensive training in the theory and
practice of Biochemical Engineering with
special emphasis on cellulosic substrates.
The course will be followed by a Panel
discussion on Biochemical Engineering
Education in the Developing Countries.

Symposium: A three days symposium between Fe-
bruary 21-23, 1977 is planned to
highlight the current status of bio-
conversion of cellulosic substances into
chemicals, energy and protein.

連絡先 Prof. T. K. Ghose
Biochemical Engineering Division
India Institute of Technology
Hauz Khas, New Delhi-110029
India

**Third Symposium of the Federation of Euro-
pean Microbiological Societies**

期日 1977年3月28日(月)～4月1日(金)
会場 Institute of Applied Microbiology, University
of Agriculture Vienna (Vienna)

テーマ Fungal Differentiation (Sporulation physi-
ology, Role of ribonucleases, Basidiocarp
formation, Genetic aspects of differenti-
ation in submerged culture) New Fermen-
tation (Production of industrial enzymes,
Lignocellulose fermentations, Computer

configurations, Molecular genetics in new fermentations)

Poster sessions: I. Biotechnology and Resource Economy, II. New Trends in Fermenter Design

連絡先 The Secretariat, FEMS Symposium
c/o Universität für Bodenkultur
Inst. f. angew. Mikrobiologie
Peter Jordan Straße 82
A-1190 Wien, Austria

5th International Specialized Symposium on Yeasts '77 Hungary (Keszthely)

期日 昭和52年9月12日~15日

会場 The Agricultural University in Keszthely

Scientific Programme として、次のトピックスが考えられています。

1. The position of yeasts and yeast-like micro-organisms in the system of fungi/2. Natural groups of yeasts and yeast-like micro-organisms/3. The connection of yeast-taxonomy with the botanical code of nomenclature/4. The relation of the species concept to the taxonomical properties of yeasts and yeast-like micro-organisms/5. Certainty of identification, uncertainty of taxonomical properties/6. Serological methods in taxonomy and identification/7. Current taxonomic trends/8.

Yeasts in soil, water, sewage and air/9. Yeast flora of plants, and plant pathogenic yeasts/10. Yeast flora of animals, and animal pathogenic yeasts/yeast flora of the human body, and human pathogenic yeasts/11. Immunological connections of colonized higher organisms to their yeast flora/12. Flora of industrial fermentors, contaminations by yeasts/wild yeast also/13. Flora of yeast-industrial products/wine, beer etc./14. Yeast flora in food industry and food products.

参加希望者は、下記に予備登録をすませてください。

〔連絡先〕 Office for Conference Organization, MOTESZ, H-1361 Budapest, POB 32, Hungary

第5回国際食品科学工学会議 (Fifth International Congress of Food Science & Technology) 第1次アナウンスメント

期日 昭和53年9月17日(日)~22日(金)

会場 国立京都国際会館

テーマ 適正栄養のための食品の製造, 加工, 保存, 利用に関する基礎的ならびに応用分野

使用言語 日本語および英語

First Circular および予備登録書申込先

606 京都市左京区吉田牛の宮町 4

日本イタリヤ京都会館内

第5回国際食品科学工学会議事務局

Personnel Placement Notice Position vacant

Fermentation Manager, who will also be responsible for the installation of all new fermentation equipment. The applicant will be expected to have experience in industrial enzyme production, culture maintenance, laboratory research and control procedures. Biochemical Engineering or Chemical Engineering qualifications would be an advantage.

The company has subsidiaries and associated companies in the U.K., U.S.A., Benelux, Australia, and Spain.

Please reply in confidence to:

The Managing Director
Biocon Limited
Rathduff, Grenagh
Co. Cork
IRELAND